

# やすらぎ保健室

(高等学校)

放課後の保健室。3年生女子生徒4人が、「先生聞いてよ」とおしゃべりを始めた。そこへ、泣きながら2年生のA子が「修学旅行に行きたくない」と来室。だけど私にはどうしても出なければならない会議があり、「A子さん、今から会議があるからちょっと待っていてくれる?すぐ戻ってくるから」と言ったところ、気を利かせて帰ろうとしていた3年生たちが「先生、安心して会議に行って来て。私たちがこの子と一緒にいてあげるから」と言ってくれた。

会議が終わって保健室に帰ったところ、「修学旅行は絶対行った方がええよ!」「私が行った店でラーメン食べ!おいしかったで。」「修学旅行のホテルがきれいやったよ」など、A子と3年生4人は盛り上がっていた。私が話を聞くまでもなく、A子は3年生たちに話を聞いてもらうことによって元気になっていたのだ。その後、A子と3年生たちはとても仲良くなり、無事修学旅行に参加したA子は、彼女たちにお土産まで買ってきたのである。

それから私が3年生4人のことを「保健室相談委員やな」なんて言うと、彼女たちもその気になり、「先生、私ら後輩の悩み相談するけん困っとる子がおったら言うてよ」と明るく言う。

部活動や中学校の先輩後輩でもない、保健室で知り合った不

思議なつながり。保健室によく来室する生徒達は、名前を知らなくてもお互いにお互いの存在をなんとなく知っている。そして、「この人も何か悩んでいるのだろうか」と感じつつ、他の学年の生徒がいても「先生、聞いてくれる?」と悩みをすんなりと話すことが多い。

普段から生徒の話をよく聴くこと、話をしやすい保健室の雰囲気作りも大切である。保健室は、生徒が悩んだとき、困ったとき、助けてもらいたいとき、駆け込める場所ではなくてはならない。

3年生4人は卒業。そして3年生になったA子の言葉。「先生、次は私が保健室相談委員になって後輩の相談にのるわ!」

保健室の不思議なつながりはこうして続いていく。